

## 特集3 4月からの新研究生活

### 1 GRM履修生に選ばれて

楊 慧敏 (同志社大学大学院社会福祉学専攻博士後期課程1年、GRM履修生)

GRMは、文部科学省の公募による平成24年度の博士課程教育リーディング・プログラム(リーディング大学院)複合領域型(多文化共生社会)に、同志社大学が申請し、採択されたプログラムである。以下では、GRMを履修している筆者が、①GRMに志望した理由、②今後の目標を述べることにしたい。



#### ■ GRMに志望した理由

GRMは、グローバル・スタディー(Global Study)研究科、理工学研究科、および連携研究科(人文・社会科学系研究科)に在籍する学生を対象とした、前期・後期課程の5年間一貫教育プログラムである。筆者は、貧困、戦争、経済危機などの社会課題を解決す

るためには、差別せず人権を守る社会福祉学を重視する必要があると考えている。それと実現するために、客観的な思考とグローバルな視点がGRM課程の履修を通して習得できるのではないかと考え、GRMを志望した。具体的な志望理由は、以下の三点である。

第一に、GRMプログラムは自然科学・理工学の知見と人文・社会科学の知見を有効的に融合できる。GRMプログラムは履修生に、自然科学・理工系の電力、エネルギー、情報、交通、水資源管理の知識と、人文・社会科学系の国際的に研究をリードする多文化共生、神学、人間の安全保証、紛争抑止、平和構築、開発学、政策科学、社会福祉の知識を教え、実践活動に参加させるのが特色である。

第二に、研究者としての能力を向上させる。GRMプログラムには、日本だけではなく他国の専門家、実践家および教育家との交流できる場がある。そのような交流を通じて多くの方々の研究と経験を学び、自分自身の状況に合わせて考え、そのことによってより良い

研究者として成長できると考える。それに、英語を重視するGRMプログラムでは言語能力を磨くことができる。さらに、組織能力と分析能力を磨けると考える。

第三に、研究結果を世界に発信できる。高齢化問題が深刻になりつつある現在、世界中が高齢者福祉に注目している。このような状況のなか、人口大国である中国の高齢化問題が特に注目、研究されている。筆者は中国における介護保険モデルを構築することをめざしているが、GRMプログラムの活動を通してそのモデルが新興国と発展途上国の高齢者福祉に参考になりうると考える。

#### ■ 今後の目標

筆者はGRMプログラムの2017年度履修生に選ばれたが、今後の目標は大きく以下の二つである。

第一に、研究に対する期待。筆者は高齢者福祉、特に介護保険を研究している。GRMプログラムにおいて、副専攻(sub major course)である自然科学・理工学の知見を学び、活用することを通して自分の研究を進めたいと考える。さらに、GRMプログラムでは一部の講義やプレゼンテーションやレポートの言語が英語であるため、筆者の英語表現能力を磨き、自分の研究を英文にし、投稿あるいは発表によって研究を進める。それによって、自分の研究を世界に発信できるのではないかと考える。

第二に、研究者としての成長に対する期待。筆者は社会学研究科の在学院生で、人間社会の基盤となるインフラストラクチャーや資源・エネルギーについての知見がほぼない。GRMプログラムの履修を通して、持続可能な発展と多文化の共生に多様な分野で貢献できる研究者になれるように努力したい。

